人口問題特別委員会視察報告

令和7年3月25日（火）

令和7年1月20～21日、裾野市、相生市への視察を行いました。

裾野市も少子高齢化が進み、町づくりの根幹にかかわる課題となっていました。

19人の議員のうち、6人の会派「未来すその」による提言は、当然その課題に向かうものでした。

視点は、産業に元気を取り戻し、豊かな雇用を創出できる町の実現であり、雇用の場づくりでした。

分類としては、交流人口増加のチャンスを徹底的につかむ施策の推進、また、町の賑わいを生み育む基盤整備の加速を打ち出しておられました。

提言としては、自然、食、文化といった地域資源を活かした現地体験型コンテンツの創出を強化すべき時である、また、「持続可能な観光」「消費拡大」「地方誘客推進」の実現に向けて、ショッピングツーリズムの視点を強化し、商業施設の誘致を押し進めるべきとされていました。

農業の産業化を実現するためには、農業法人の誘致に向けて立地支援制度の創設、就業者定着に向けた移住支援と体制の強化及び生産者による戦略作物の提案制度を創出すべきと提案されていました。

調査の目的である会派「未来すその」について、施策の項目毎に、現状、必要性、すべき姿を示し提言にまとめられており、分かりやすいものとなっていました。

言葉を変えれば、市民からの要望・意見を会派で整理され、毎年度、執行部への要望事項として、提言という形でまとめられていると考えられました。

会派活動の先進例として学ぶべき事例でした。

裾野市は、箱根エリアの観光ルートでもあり、トヨタによるウーブンシティづくりが始まっており、本市とは少しかけ離れた環境であったようでした。

相生市においては、子育て支援対策の調査でした。

支援対策においては、井原市長が進めておられる施策の方が進んでいると感じました。

人口減少にどう対処するかは、財政健全化も大切ではあるが、地域活力向上のために、1人口減少対策、2教育子育て少子化、3産業の活性化などに取り組みをされていました。